
透析専門病院におけるスタッフの腰痛対策活動～ノーリフトケアコーディネーターの役割

医療法人衆和会 長崎腎病院

○上谷しのぶ 熊 博和 山中真紀子 丸山祐子 原田孝司 船越 哲

【背景】

透析専門施設である当院では、約 360 名の外来患者と約 70 名の入院患者の血液透析治療に従事している。入院患者のうち 46 名は担送・護送者であり、これら患者の移動介助の要因もあり、当院スタッフの腰痛の保有率は約 70%となっている。

【目的】

腰痛を起こさない環境作りのために、ノーリフトケアコーディネーターを 2 名育成し、スタッフの腰痛対策への意識改革を試みた。

【対象・方法】

病棟看護師 31 名 病棟浄化センター看護師 4 名 病棟看護助手 10 名を対象にアンケートを行い、コーディネーターから講義や実技を通じて腰痛対策の教育を行った。

【結果】

講義内容の理解度や導入した福祉用具の使用状況等をアンケート調査した結果、講義の内容は 76%、福祉用具の使い方は 70%が理解できていた。しかしスタッフの姿勢をチェックした結果、80%が不良姿勢であった。

【考察】

ノーリフトケアの推進のためには、知識のみならず業務自体の見直しと習慣化が重要と思われた。